

平成 27 年度第 2 回 矢臼別演習場周辺まちづくり構想住民懇話会 議事要旨

開催日時：平成 28 年 1 月 28 日（木）午後 1 時 00 分から 3 時 00 分まで

開催場所：別海町役場 1 階 101・102 会議室

出席人数：13 名

＜会議次第＞

1 開 会

2 前回の振り返り

3 議事

- ・議案第 1 号 矢臼別演習場周辺まちづくり構想（基本構想）アンケート調査結果について
- ・議案第 2 号 まちづくり構想で大切にしたいこと（ワークショップ）

4 閉 会

1 開 会 （司会 総合政策課長）

2 前回の振り返り

第 1 回目の会議では、委嘱状の交付や、住民懇話会における座長及び副座長の選出を行っている。座長には、別海連合町内会会長の山口長伸氏、副座長には、別海町商工会会長の橋本淳一氏がそれぞれ選出された。

議案第 1 号では、まちづくり構想の概要説明や、アンケート調査の単純集計の報告。議案第 2 号では、「こうありたい別海町の将来像」ということで、委員の皆さんから意見をいただいた。この意見は、参考資料の中段以降から、裏面に渡り記載されており、地域経済に関すること、交流や教育・子育てなどについての意見となっている。

なお、今回から住民懇話会に加わっていただいている 5 名の委員の方にも、1 月 14 日に説明会を開催し、第 1 回の会議内容の状況について説明をさせていただいている状況となっている。

3 議 事

議案第 1 号 矢臼別演習場周辺まちづくり構想（基本構想）アンケート調査結果について

株式会社 KITABA

資料 1 に基づき、概要説明。

委員

アンケートの送付範囲はどこまでか。また、10 代の回答が少ないという部分については、2,500 名を年代別に同じ比率になるよう分配して送付した結果か。

事務局

全町民の中から 2,500 名を抽出し送付している。

この調査は満 18 歳以上を対象にしており、元々 18 歳以上を 10 代とした場合、その範囲が狭い状況にある。今回、10 代、20 代というような分け方をしたとき、そもそも母数が少ないということが、この結果につながったと思われる。

委員

他のまちと比べたときに何か浮かび上がってきたものなどはあるのか。

株式会社 KITABA

中央公民館については、利用の頻度が少ないという状況だったので、ソフトプログラムの工夫や、もう少し複合的な機能にしていく必要があるのではないかと、現在の状況から見えてくることかと思う。

また、想定内中心地区については、買い物を充実させていかなければならないということが、アンケート結果から浮かび上がってくることと思われる。買い物だけでなく、20代、30代の方からは、お子さんのための遊び場の機能についてもニーズとして見えてきているので、買い物プラスお子さんのための場所、それから、高齢者の方には違ったサービスということで、複合的に考えていかなければならないのではないかと、結果から読み取れる。

委員

別海町には、中央公民館のほかに2つの公民館（東公民館、西公民館）があるので、中央公民館の利用頻度については、対象者である2,500名の内、どの程度が中央地区の人達なのかも加味する必要があるのではないかと。

委員

アンケートの最後に自由意見を記載する欄があったかと思う。そこでの意見についてもお知らせいただきたい。

株式会社 KITABA

アンケートで書いていただいた意見については、テキストマイニングという手法により、意見の中でどういう単語が多かったのかを抽出し、それらの関係性を分析した。そうすると、「別海町」、「良いまち」、「だと思ふ」のようなキーワードが非常に多かった。それから、「別海町」、「公共施設」、「充実」というのが次に多いワードだった。これについては、もう少し分析を進めてみないと分からないが、別海町は公共施設が充実しているのか、していないのかで意味が逆になるので、もう少し分析させていただき、次回ご報告させていただきたいと思う。他には、「別海」、「住む」、「良い」、「思ふ」などのキーワードが多い傾向にある。また、「買い物」、「中標津」、「行く」もそうであった。買い物は中標津に行かれる方が非常に多いということがアンケートでもあったが、自由筆記欄の中でもそういう傾向であった。「中央公民館」、「利用」というのも多いのだが、それがしたいのか、したくないのかということところまでは読み込めていないので、次回に報告させていただきたい。

議案第2号 まちづくり構想で大切にしたいこと（ワークショップ）

株式会社 KITABA

「まちづくり構想で大切にしたいこと」として、それぞれのテーブルにシール投票で使う、軸が設定された1枚物の用紙には（資料2）、アンケート結果や前回の住民懇話会などでご意見をいただいたものを盛り込み、全部で15のキーワードが並べられている。

まず1回目、まちづくり構想で大切にしたいことを5つ選び、青い方のシールを5枚、直感で貼って

いただく。どうしてもこれが重要だというものについては、ひとつのキーワードに5枚全部を使っても構わない。その後、なぜここにシールを貼ったのかということを、各テーブルで詳しくお話を伺い、それを書きとめながら、なぜこれが必要なのか、重要なのかということを掘り下げていく。そうすると、他の皆さんの話を聞き、議論することで「そういう考えもあるからこれも大事だ」、「もしかしたらこれが重要なかもしれない」というように、意見が変わってくることもある。一通り理由を聞き、意見交換してもらった後、今度は赤のシールを貼っていただく。議論した結果、最初はこの意見だったが、意見交換したことで最終的にこういう結果となった、というふうに意見の傾向が変わってくると思っており、そこにどのような背景があるのかということを掘り下げていくと、まちづくり構想で大切にしなければならないことが浮き彫りになって見えてくるのではないかと考えている。

ーグループ分け及び1回目シール投票ー

1回目のシール投票が終わったので、両テーブルの投票結果を比較していきたいと思う。Aテーブルで一番多いのは、「新たな雇用の創出」、「地場産品の買える場所」が5票。続いて「多世代交流空間の場」、「地域活動の活発化」、「コミュニティの向上」、「子育て、福祉の充実」が4票というような傾向となっている。Bテーブルで一番多いのは、「地場産品の買える場所」と「コミュニティの向上」の4票ということで、両テーブル共通した項目となっており、どういうことなのかを深く聞いてみたいと思う。続いて「新たな雇用の創出」、「地域活動の活発化」、「多世代交流空間の場」も票数が高く、やはりAテーブルと似た傾向となっている。

この後30分ほど使い、どういう理由で投票したのかというのを聞いた後、同時に2回目のシール投票を行い、どういう変化があったかなどを見ていきたいと思う。

ーワークショップー

それでは結果を振り返っていききたいと思う。

Aテーブルでは色々お話をした結果、新たな雇用の創出というのは、やはりまちの基幹産業、第一次産業がしっかりしなければならない。また、地場産品がきちんと別海で買える場所が必要であり、例えば酪農家でつくっている牛乳やお肉を別海で売れるという状況に今は無いということで、新たな雇用の創出を考えていくうえでは難しい状況にある。そしてこれらは別々に考えることなく、一体として考えられる話ではないかということであった。「世代間交流の場」については、町内会の活動なども、中々新しい若い人が入ってこないで、「コミュニティの向上」が大事であるという話や、「防災意識の向上」のためにはコミュニティ機能が大事であるということ。「世代間交流」は「地域活動の活発化」がないと駄目であり、「コミュニティの向上」もそれに関連して必要になってくる、というように各々が強く密接に関係しているというのが見えてきた。特に「コミュニティの向上」はどれとも深く繋がっているのではないかという話もあり、特に関係の深いところでは「新たな雇用の創出」、「地場産品が買える場所」、「地場産品のレストラン」の3つは表裏一体ではないか。「世代間交流の場」と「地域活動の活発化」というのは切っても切り離せないのではないか。また、「コミュニティの向上」と「防災機能の向上」も密接な関係があり、「子育て、福祉の充実」、「屋内遊び場」、「子どもの一時預かり」というのも一緒かもしれない。さらに、「子どもの一時預かり」、「屋内遊び場」、「多世代交流空間の場」、そして「地場産品のレストラン」や「地場産品の買える場所」というのは、施設のイメージとして複合化した空間、例えば買い物しているときにお子さんを遊ばせておける場があると良いし、そこに子どもを見守るお年寄りが集まれる場があればなお良い、といったように、複合的に絡まっていることが、まち

づくり構想を考えていくうえでは重要なのではないかという話になった。しかしながら、全て一緒にしてしまうと複雑化してしまうので、Aテーブルでは特に関係の深いものをひとくくりにして分け、赤シールの投票を行った。そうすると、票の動きはほとんど無いと言っていい結果となった。ただ大事なものは、中央公民館の機能ということを考えてとき、コンサートが出来る場が充実していないと、中央公民館が更新されるということにならず、そういう場所で「世代間の交流」や「地域活動が活発」となるきっかけができるのではないかという話があった。その他、中標津町に住んで別海町で働くというのではなく、別海町に住んで別海町で働くというふうにしていかなければならないこと。別海町には住む場所が少ないのではという話もあるので、まちづくり構想の中では、まちなかに便利に住むといったものことも併せて考えなければならないのかもしれないということだった。

Bテーブルでは、まず「コミュニティの向上」について、色々な活動をしている人やサークル、団体、技術を持っている人の横の繋がりや、人を紹介するような機能が無く、バラバラな状態になっていることが指摘された。また、ひとつの場所に行けば地場産品を買える場所が無いので、そういう場所があったら良いのではないか。「新たな雇用の創出」として、例えば商工会の会員数は、現状維持は出来るものの新たな発展と言うのは難しい状況にある。発展させるためには新しい企業を入れたら良いのか、大企業を誘致したら良いのかなどといった手を打つ必要性がある。また、雇用というものにはボランティアや有償ボランティアも含まれるのではないかという意見もあった。他に、コミュニティも横の繋がりが必要であること。多世代間交流もコミュニティの繋がり、場が必要であり、それは児童館やサロンということではなく、子どもからお年寄りまで皆が集まり、田舎らしくおせっかいに子どもを育てていけるような場があれば、子どもをより育てやすくなるのではないか。そしてこれらはすべて、繋がりが必要であるという意見。現在、それらの素材はあるものの、その横の繋がりがなく、それらを集約して分配する人がいないので、その繋がりをつくる機能だったり、コーディネートをする役割の人が必要であるというような意見があった。

株式会社 KITABA 神長氏

最後、簡単にまとめさせていただきたい。

まず、両テーブルの意見が似ているという印象を受けた。例えばAテーブルでは、子どもとお母さんが集まれる場所はあるが、高齢者と小さいお子さんが一緒に過ごす場や機会というのはあまり無いとのことだったので、複合的なものという話があり、Bテーブルについても、そういった場づくりについては全く同じようなご意見であった。そこに買い物支援や子育て支援の機能などが複合的に絡まっているということが、これからのまちづくり構想を考えていくうえで大事なのではないかということである。そこに基幹産業、一次産業がしっかりあって、地場産品がどこで食べられ、どこで買い物ができるということも重要かもしれないということが、共通したお話だったのかなと思う。

この内容を、次回2月4日までにまとめ、今日の結果を踏まえて方針のたたき台を整理していきたい。それをまた議論していただくほか、その後の2月13日には住民大会、同時期にパブリックコメントも行うということで、新年度には引き続き更に深く掘り下げていくという作業となる。本日はその取っ掛かりの会議であるが、非常に重要な話がたくさん出されたと思っているので、次回までに取りまとめていきたい。

8 閉 会